

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市南區1丁目1番地11号

〒320-8686

下野新聞社

電話 028-625-1111

新聞部 028-625-1111

営業部 028-625-1114(東京・東京)

編集局 028-625-1121

下野新聞社ホームページ

http://www.shimotsuke.co.jp/

号外

下野新聞1週間無料お試しキャンペーン実施中!
お申し込みは 0120-810081

QRコード

なでしこ 世界一



米国を破り初優勝を果たし、トロフィーを掲げて大喜びの沢(中央)ら日本イレブン＝フランクフルト

米と激闘、PK戦制す

沢得点王、MVP

サッカー女子W杯

▽決勝

日本 2 延長 2 米 国

10 10
01 01

(PK 3-1)

▽得点者 [目] 宮間(後36分) 沢(延長12分) [采]

モーガン(後24分) ワンバック(延長14分)

▽観衆 48817人

【フランクフルト共同】サッカーの第6回女子ワールドカップ(W杯)ドイツ大会は17日(日本時間18日)、フランクフルトで決勝戦を行い、日本代表「なでしこジャパン」は2-2の激闘からのPK戦を3-1で制し、3大会ぶり3度目の優勝を挙げた。米国を破って、初優勝した。欧米勢以外での初制覇で、国際サッカー連盟(FIFA)主催大会での日本の優勝は男女を通じて史上初めての快挙となった。

FW安藤梢(宇女高)筑波大学院、デュイスブルク、DF鮫島彩(田原中)宮城・常盤木学園、ボストン)は先発で出場し、攻守で貢献した。後半24分に先制された日本は、36分にMF宮間あや(岡山湯郷)のゴールで追いついた。延長前半14分に再び先行を許したが、同後半12分に主将のMF沢穂希(INAC)が同点ゴールを決め、PK戦に持ち込んだ。PK戦ではGK海堀あゆみ(INAC)が2人のキックを止めた。沢は大会の最優秀選手に選出され、通算5ゴールで

世界にアピール 安藤梢の話 信じられない。なでしこをドイツ、世界にアピールできたのでうれしい。一人一人が最後まであきらめず戦って最高でした。

すべての人に感謝 鮫島彩の話 素直にうれしい。自分がこの場に立てたのは支えてくれた人たちのおかげ。すべての人に感謝したい。

自分信じ諦めず 沢穂希の話 信じられない。みんな諦めずに戦い抜いた結果。120分間、自分を信じて走り続けた。ずっと世界一を目標にやってきた。金メダルを日本に持って帰ります。

娘たちが粘り強く 佐々木則夫・日本女子代表監督の話 (PK戦では) 意外に冷静だった。ここまでくれば十分だから。本当にびっくり。ちょっとした娘たちが粘り強くやってくれた。

安藤、鮫島も貢献

「日本に勇氣」 県内歓喜



前半、競り合う安藤



後半、パスを出す鮫島

「おめでとう」「日本に勇氣と元氣をくれた」。日本に粘りに粘った「なでしこジャパン」がPK戦の末に劇的な初優勝を飾った。女子サッカー世界ランク1位の米國を破り、悲願の金メダルを獲得した18日早朝、県内は歓喜の渦に包まれた。決勝のピッチに立った本県出身のFW安藤梢(29)、DF鮫島彩(24)の両選手。女子W杯史に残る激闘を制した2人の活躍に大きな拍手が送られた。

宇都宮市立伏町の鮫島選手の自宅には小中学校の同級生ら約40人が駆け付け、テレビ中継に一喜一憂した。米國に常にリードされる苦しい展開。延長戦後半に追いつき、PK戦へ。DF熊谷紗希選手(20)のPKが決まった瞬間、地響きのような歓声と拍手が沸き起こった。

父俊裕さん(55)は「選手一人一人の粘りと精神力が勝因。彩も積極的に攻撃参加した」と興奮した様子。両手でしばらく顔を覆った母佳代子さんは「信じられない」と肩を振るわせた。

鮫島選手とともにW杯の歴史に名前を刻んだ安藤選手の両親は同市岩曽町の自宅で決勝を観戦した。試合終了後、父寛さん(57)は「前半、梢の得点チャンスがあつて惜しかった。でも優勝できて本当にうれしい。感激した」と声を詰まらせた。

県勢大活躍 誇りに

福田富一知事の話 女子サッカーワールドカップで、本県出身の安藤選手、鮫島選手が大活躍し、優勝されたことを心からお祝い申し上げます。「なでしこジャパン」が一九となつてつかんだ快挙は、大震災後

のうつむき気味の日本に活力と感動を与えてくれました。特に2人の活躍は、日本女子サッカー界に新たな歴史を刻むとともに、私たち200万県民の誇りであり、誠に喜ばしい限りです。これからも県民に大きな夢と感動を与え、本県の力となつて下さい。世界一本当におめでとう。

県内のサポーターも熱い声援を送った。宇都宮市春日町のスポーツカフェ「ラウンド87」にはブルーの代表ユニホームを着たファン約30人が手に汗握る展開を固唾をのんで見守った。市員町赤羽から姉妹で訪れた大塚絵美さん(27)は「米國に勝ち越された時は厳しいかなと思つたが、まさか優勝するなんて。安藤選手や鮫島選手たちが日本に勇氣と元氣を与えてくれた」と両選手の健闘を心からたたえた。(菊地哲也、加藤寛)



初優勝に沸く鮫島彩選手の両親や友人ら＝18日午前6時21分、宇都宮市立伏町、柴山英紀撮影